

関西学院大学 研究成果報告

2023年9月11日

関西学院 院長殿

所属：商学部
職名：教授
氏名：菅原智

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国：イタリア） <input type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国： ） <input type="checkbox"/> 宣教師研究期間
研究課題	イタリア大学におけるアクティブ・ラーニング及びビジネス・デザイン思考を活用した経営・会計教育の動向調査及び国際比較研究
研究実施場所	ミラノ工科大学およびパルマ大学
研究期間	2022年 9月 1日 ～ 2023年 8月 31日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

本留学の目的は、イタリア大学におけるアクティブ・ラーニング及びビジネス・デザイン思考を活用した経営・会計教育の動向を調査研究し、かつ諸外国との国際比較研究を行うことであった。本在外研究以前の研究活動では、特に会計教育の分野において、LEGOを活用したアクティブ・ラーニングをイタリアや日本の大学で実施し、その効果測定を行なってきた。この過去の研究成果を踏まえ、本留学では留学先のミラノ工科大学とパルマ大学において、以下のように研究活動の拡張・発展を行なってきた。

第1に、ミラノ工科大学では受け入れ担当教員のProf. Claudio Dell'Eraのデザイン思考の授業を毎週受講し、当該コンセプトを応用した授業における実践的な方法論やテクニックを経験することができた。これによって、デザイン思考メソッドを扱った問題解決能力を開発するアクティブ・ラーニング授業の構築・実施に関して、関連書籍や論文で読むだけでは得られない具体的方法を習得することができた。

また、2023年5月には、科研費の国際共同研究加速基金（海外連携研究）に「デザイン思考とエフェクチュエーション理論を反映した新起業家教育の構築に関する研究」というタイトルでProf. Claudio Dell'Eraと共同申請し、今後の継続した研究活動を見据えた準備を進めた。さらに、「New Entrepreneurship Education Incorporating Design Thinking and Effectuation Theory: Content Analysis Method, working paper」というタイトルで同じくProf. Claudio Dell'Eraと共著論文を作成中である。

第2にもう1つの在外研究先であったパルマ大学では、これまでも実施してきたLEGOを活用したアクティブ・ラーニングの授業を現地の学生に対して実施し、データを入手する作業を主に行なった。授業は2023年1月から5月にかけて毎回5時間の授業を10回程度不定期的に行なった。在外研究以前には、短期的・断片的にしかイタリアに滞在することができず、研究のための十分なデータを入手することが難しかったが、今回の在外研究では、長期滞在中継続的に学生からのデータ入手が可能となり、より深い分析から結果を導くことができた。これらの新たに収集したデータは、帰国後に成果論文としてまとめていく予定である。

また、パルマ大学の在外研究中には、過去に収集していたデータで「オンライン環境を用いたアクティブ・ラーニングの効果分析」を行うことも当初より予定していた。この研究テーマは、過去2年のコロナ感染拡大により一般化したオンライン技術を活用した教育方法に焦点を当て、どのような要因が教育効果に影響を与えるかについて調査を試みた。当該研究内容については、パルマ大学の受け入れ担当教員であったAndrea Cilloni先生と共に共同論文「Sugahara, S. and A. Cilloni (2023) The impact of students' perceptions of online synchronous learning delivery mode integrated with experiential learning adopted for accounting classroom upon their intention of its technology use, working paper」を作成した。本論文は、今後、会計の国際学会に提出し、口頭発表を介した後に、海外ジャーナルでの出版を目指している。

さらに、本研究テーマを拡張し、発展的研究を継続するために、「会計監査業務における先端デジタル技術と職業会計士業務の最適構造明示化に関する研究」というタイトルで在外期間中に科研費（基盤研究B）申請を行なった。この研究テーマは他8名の日本国内の研究者が研究分担者として参加するが、パルマ大学のAndrea Cilloni先生も海外共同研究者として参加してもらい、これまでも研究を継続してきたLEGOを活用したアクティブ・ラーニングの授業プラットフォームを利用して、進めていくプロジェクトである。この将来実施する研究活動の準備などについても、在外研究中に行なった。

上記、研究成果の他に、在外研究期間中に以下の研究成果を得ることができた。

a. 論文として出版された研究

在外期間中に、これらの論文の出版作業をイタリア現地で行なったため、これらの論文も在外研究の成果の一部としてここに記載しておく。

（英語）

1. Sugahara, S. N. Tsunogaya, and F. Kim (2023) Interaction effect of foreign language and obedience pressure on ethical judgement in accounting: evidence from Japan, *Journal of International Accounting Research*, Vol 22, No.1, pp.83-98.
（本研究は、会計の文脈における外国語効果を調査した実験研究となっている。在外期間中に海外ジャーナルに掲載するための最終的な校正などを行なった。）
2. Sugahara, S., K. Kano and S. Ushio (2022) Effect of high school students' perception of accounting on their acceptance of using cloud accounting, *Accounting Education*, published online (DOI: [10.1080/09639284.2022.2114293](https://doi.org/10.1080/09639284.2022.2114293))
（本研究は、日本の高校でアクティブ・ラーニング授業を実施し、高校生の会計に対するイメージと学習効果の関連性を調査した研究となっている。在外期間中に海外ジャーナルに掲載するための最終的な校正などを行なった。）

（日本語）

3. 菅原智 (2022) 「会計監査における倫理的判断に及ぼす外国語効果と服従圧力の相互効果：日本における実証研究」国際会計研究学会・研究グループ報告「日本的会計制度の変遷と課題」最終報告書・第9章
（上記1の英語論文を日本語論文に翻訳し、出版した論文である。在外期間中

に執筆・校正作業を行なった。)

4. 菅原智 (2023) 「農業経営法人におけるクラウド会計活用事例」 『産研論集 (関西学院大学)』 第 50 号, pp.25-30.
(関西学院大学の産研論集に執筆した論文である。在外期間中に執筆・校正作業を行なった。)

b. Working paper (上記本文でも示した、現在執筆中の論文である。在外研究中に研究活動を開始し、執筆を継続している研究である。)

(英語論文)

5. Sugahara, S. and A. Cilloni (2023) The impact of students' perceptions of online synchronous learning delivery mode integrated with experiential learning adopted for accounting classroom upon their intention of its technology use, working paper
6. Sugahara, S. and C. Dell'Era (2023) New Entrepreneurship Education Incorporating Design Thinking and Effectuation Theory: Content Analysis Method, working paper

(日本語論文)

7. 菅原智 (2023) 会計教育におけるオンライン同期配信モードを採用した経験学習に対する印象がその後の技術利用意向に与える影響に関する研究、現在執筆中

c. その他 (オンラインでの学会報告で在外研究中に報告したものである。)

8. 菅原智 「会計監査における倫理的判断に及ぼす外国語効果と服従圧力の相互効果：日本における実証研究」 国際会計研究学会・研究グループ報告「日本的会計制度の変遷と課題」最終報告、日本大学、オンライン開催

以 上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構 (NUC)

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。